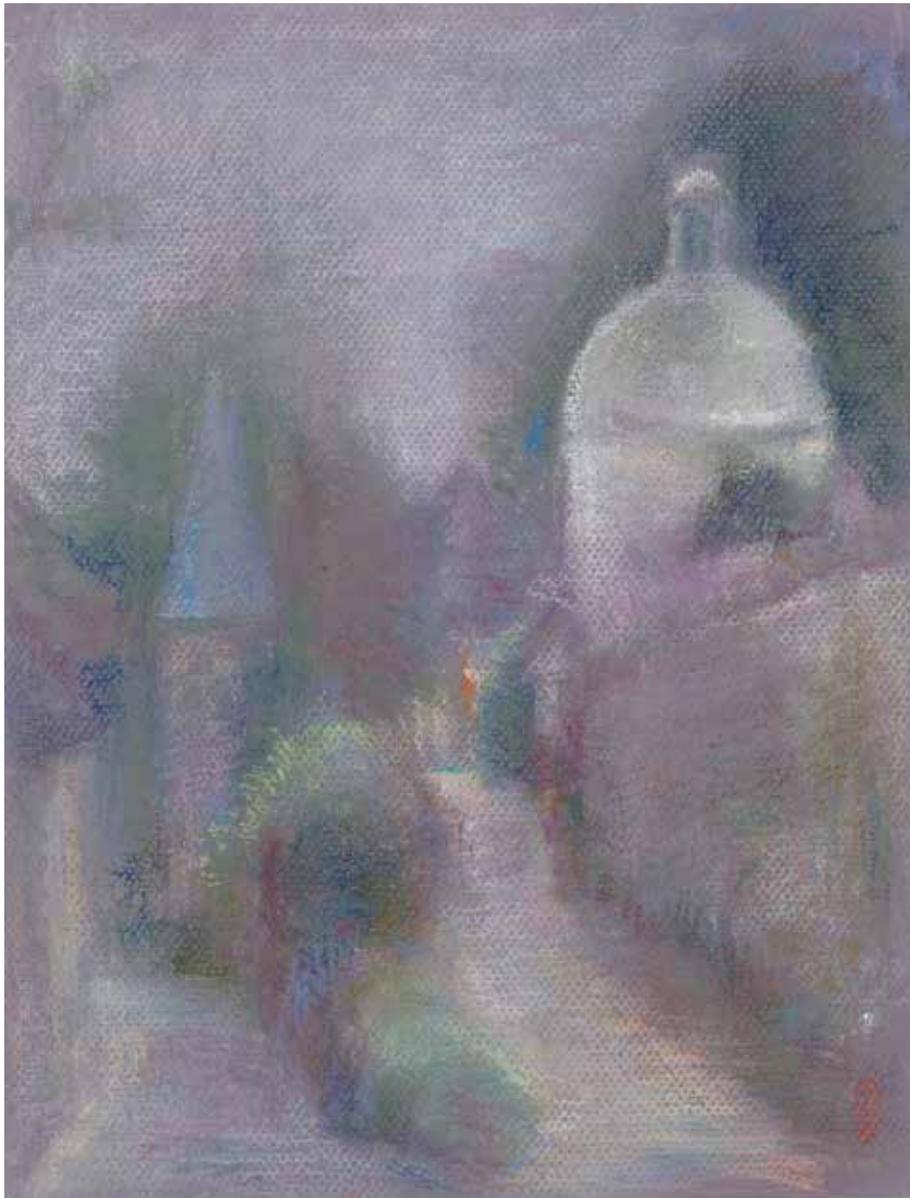


# 不二

中高版

2・3

2021



第70回全日本学生書道展成績発表  
令和2年度第2回昇格・昇段試験課題発表

漢字半紙（誌友・準誌友＝月例課題  
八段～五段＝昇格・昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

漢委奴國王

漢委奴國王

名前はフルネームで書きましょう

（解説は18ページ）

小久保嶺石先生書

八段～五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

漢字半紙 (四段～初段＝昇段課題)

課題は段級別です。ご注意ください。

有柄銅剣  
ゆうへいどうけん

銅有

剣柄

名前はフルネームで書きましょう

(解説は18ページ)

小久保嶺石先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

漢字半紙（1級＝昇段課題  
2級～10級＝月例課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

軍艦島  
ぐんかんじま

軍艦

名前はフルネームで書きましょう

（解説は18ページ）

小久保嶺石先生書

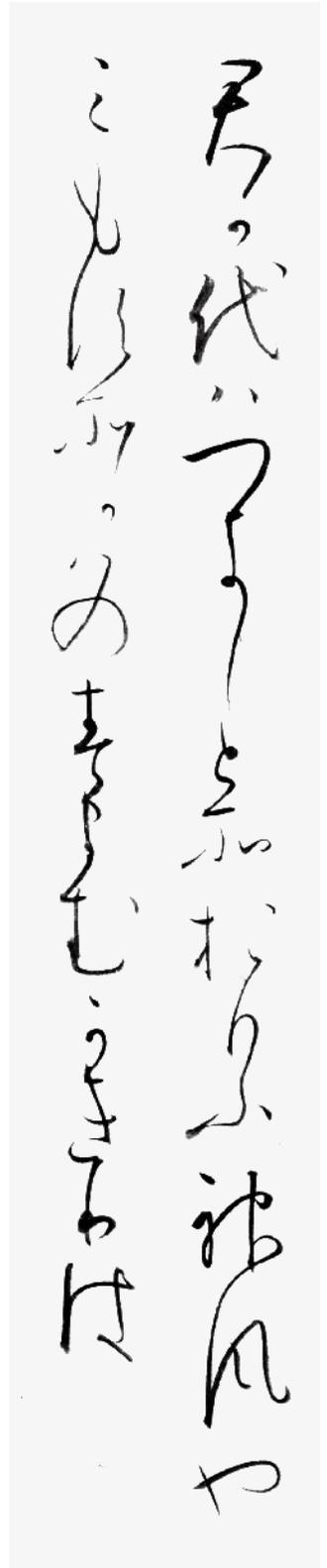
1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

# かな半紙 ( 誌友・準誌友=月例課題 八段~五段=昇格・昇段課題 )

課題は段級別です。ご注意ください。

秀歌之體大略

〔筆者〕 近衛家熙 (一六六七~一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)



(解説は19ページ)

## 短冊について

鎌倉末期頃より和歌をしたためる書式として広まりました。横約6cm、縦約36・5cmの大きさで全懐紙をたてに八等分した大きさです。短冊には上下があり、雲・霞形は広いほうが、濃淡は濃いほうが、着色が異なる場合には色の濃いほうが上といったもので、練習用紙ならば、糊付けされている方が上になります。

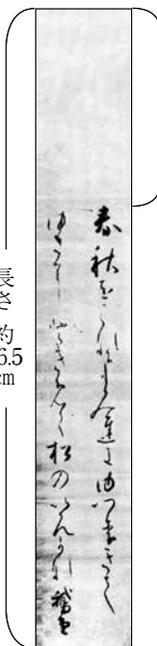
## 書式

伝統的な書式

- 短冊の上部を1/3または1/4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないよう、少し空けるとよいでしょう。
- 行間や、字粒にも気をつけ、作品として調和するよう心がけましょう。また最近では、このような伝統的な書式にこだわらず、自由に書くこともあります。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1/4 (約9cm) またはおよそ1/3 (約12cm) 空ける



幅 約6cm

八段~五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

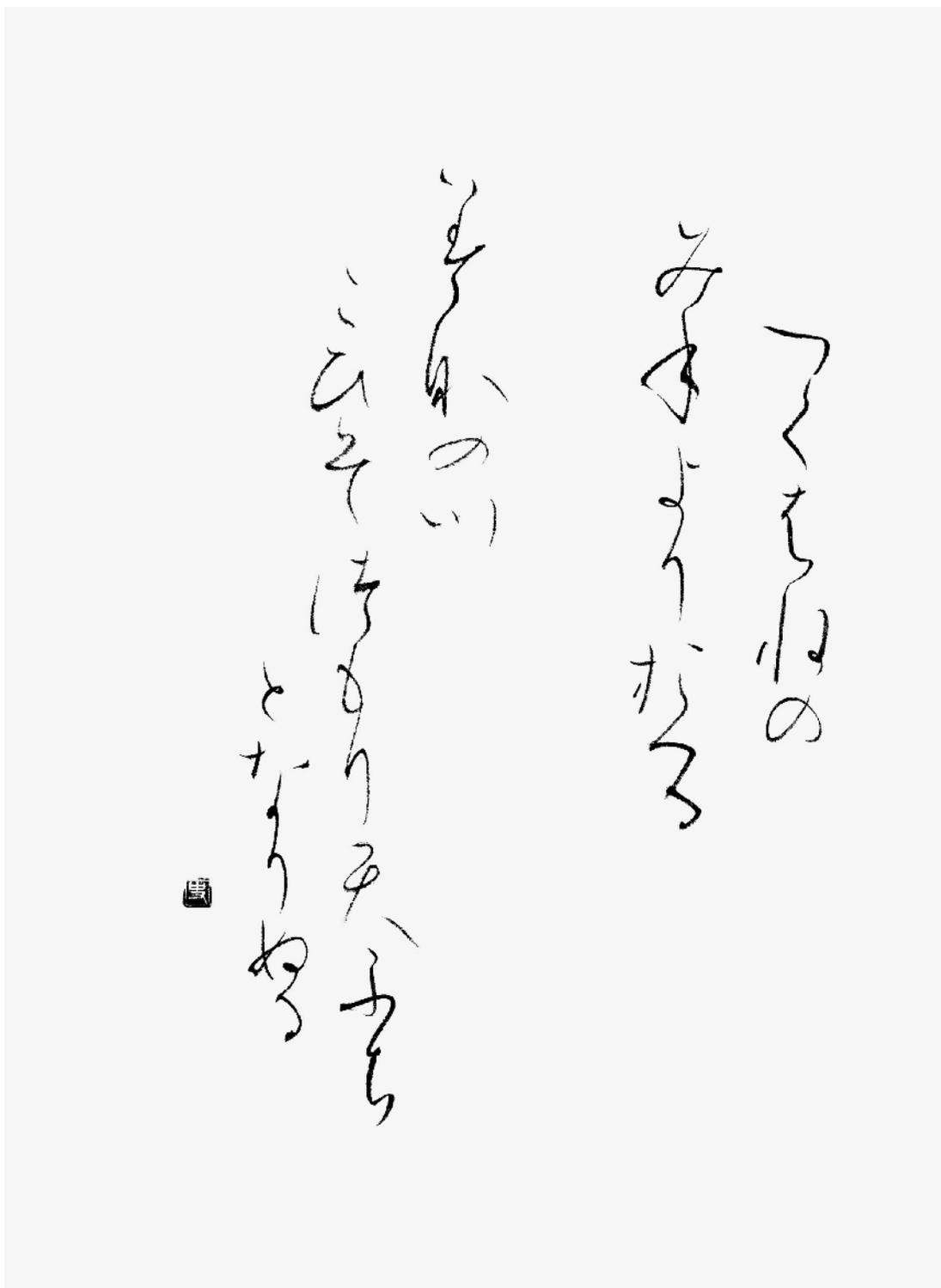
かな半紙 (四段～初段＝昇段課題)

課題は段級別です。ご注意ください。

つ久者ねの  
み年より於つる  
美那の川  
こひそ徒もり天  
ふちとなりぬる

名前はフルネームで書きましょう

(解説は19ページ)



川島史子先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

# かな半紙 ( 1級=昇段課題 2級~10級=月例課題 )

課題は段級別です。ご注意ください。

ほし  
はれ  
ぬふ  
ねて  
ゐの  
阿ら



名前はフルネームで書きましょう

(解説は20ページ)

「梅雪かな帖」より

1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

扁額の書をつくる(誌友)準誌友11月例課題  
(八段)初段11昇格・昇段課題

動中静

動中の静、(苦中の楽)こそ本物である。静かな環境の中で心の静かさは、本物の静かさではない。活動の中で静かさを保つことこそが、本物の静かさなのだ。  
『菜根譚』(明末の随筆集)

今月の出品作品、「花鳥風月」を見ると、手本の見方も上手になってきています。手本からは形だけではなく、筆遣いを見習っての作品づくりが出来てきています。机に向かって立っただまま書いたと思われる作品や、筆のあらゆる面を用い八面出峰を地で行く作品などがあり、書道此処にありの感を深くしました。

動: たつぷり筆に墨を含ませて書くが、偏の方で墨をとられずに要領よく筆を運びたい。「力」ではゆっくり残りの墨をしばらく出しながらじっくり書く。中: 四画なので途中で筆の鋒先を直したり墨継ぎをしない。縦画は真中にかけたのでは能力がない。

静: 「青」と「争」が支え合うように組み合い。最終画を左に傾けて支える。落款は本文を書いた筆で、さりなく入れてみよう。書いた作品は壁に掲げて見てみよう。

(用紙) 画仙紙半切1/2・たて35cm×よこ68cm

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



石橋鯉城先生書

(用具・用材)

筆 永昌大号条幅 墨 一味真紙 中国画箋(单宣) 半切二分の一

八段)初段で出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

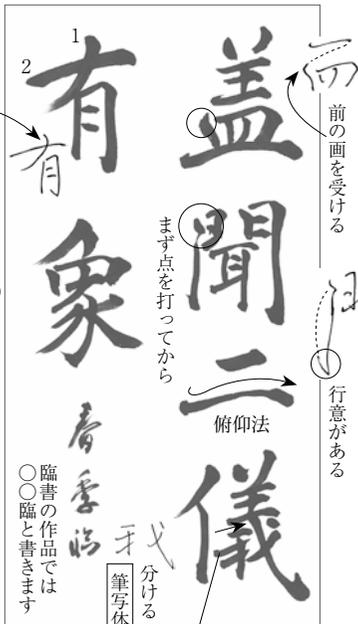
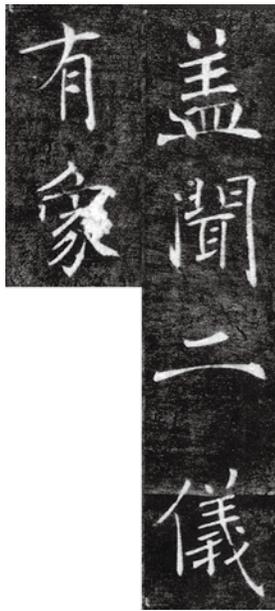
漢字条幅 (1級⇨昇段課題  
2級⇨10級⇨月例課題)

課題は段級別です。  
ご注意ください。

小久保嶺石先生書



(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)



2つの画が交わる  
位置に注意

前の画を受ける

行意がある

まず点を打ってから

俯仰法

分ける  
筆写体

短く

臨書の作品では  
〇〇臨と書きます

一度止めて  
骨力をつける

※作品識別のため、作品下部  
に教室・氏名の鉛筆書きを  
してください。

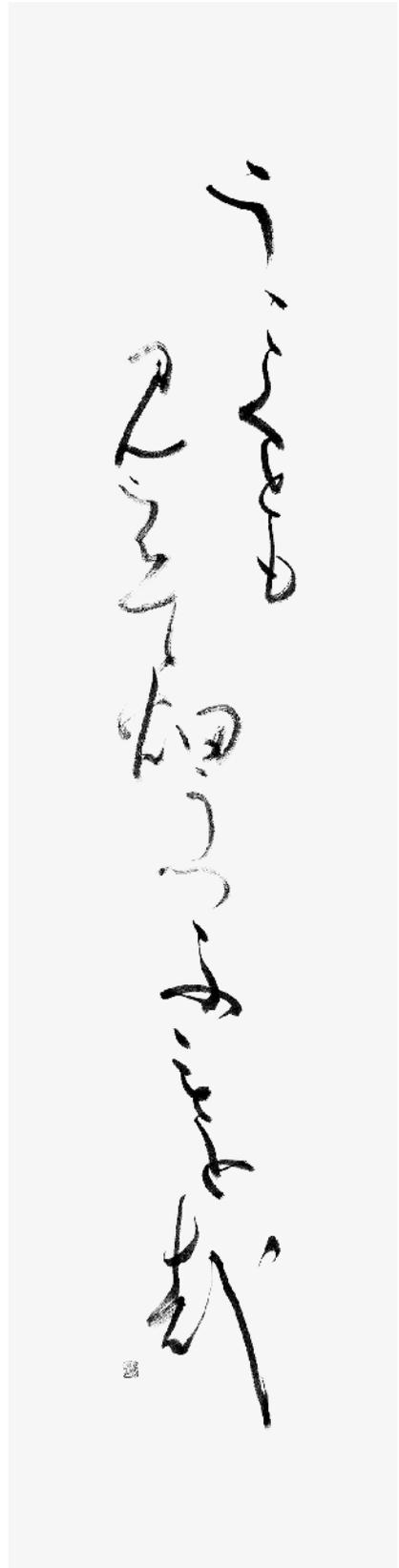
〈用具・用材〉  
筆⇨永昌条幅  
墨⇨和墨(油煙墨)  
紙⇨中国画仙

大唐三蔵聖教序  
蓋…皿の1画目の起筆は、上  
部の王を受けての筆脈。  
聞…1画目は、まず一度点を  
打つようにしてから鋒を  
上げ、体で縦画を引き、  
再び鋒を上げて2画目に  
続ける。行意を感じて筆  
勢をつける。  
二…短く強い線に対し、軽快  
なりズムで、パネのよう  
な弾力のある長い画を引  
く、という具合に、圧  
(力)や結構にバランスを  
取って書く。  
儀…私の1画目は左から右へ。  
2画目を短くして偏と旁  
のように分ける筆写体。  
有…右手(マ)と肉(肉)で  
ある。筆順に注意。  
象…上部を大きく作り、下部  
は広げない。中心下部の  
綽勾(ノ)は一度点を  
打つようにしてから下方  
に引く。

# かな条幅

（誌友・準誌友Ⅱ月例課題  
八段～1級Ⅱ昇格・昇段課題  
2級～10級Ⅱ月例課題）

須山万寿先生書



（用紙 画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm）

うごくとも見えて畑うつふ毛と哉

〈読み〉 うごくとも見えて畑うつふ毛と哉

〈作者〉 向井去来（一六五一～一七〇四）

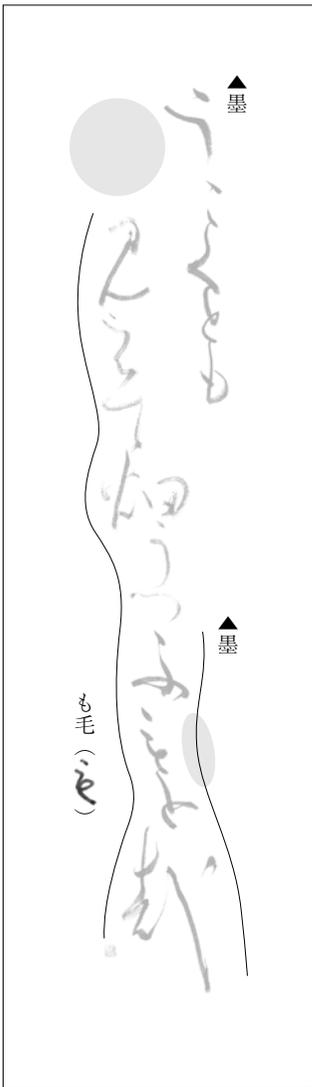
〈大意〉

長崎県出身の向井去来の句。四囲の景色は未だ荒涼とした姿がのこっているが、よく気をつけてみると木々には芽吹きがみえ、野辺にも草のみどりが見える。そうした

中で、うつすらとみどりに煙ったような山の裾の畑に二、三人の人の姿がみえる。

おそらく畑打ちの人の姿だと思いが、じつと一所に立っているようにしか見えない。

近寄って見たら鋤や鋤をふるっている人の姿だろうと思いが、遠くから見るとただの人影のようにしか見えない。



〈解説〉

○発句の「うごくとも」は横に広がる字がないため一字目の「う」を巾広く動きのある字とする。

○二行目は上部をあげて、渴筆で書く。「畑」を大きく重くしないように気を付ける。

○「ふもと哉」で墨を入れ弾む感じで書く。最後の「哉」は字は大きく書きますが重くならないようきびしい線で書いてください。

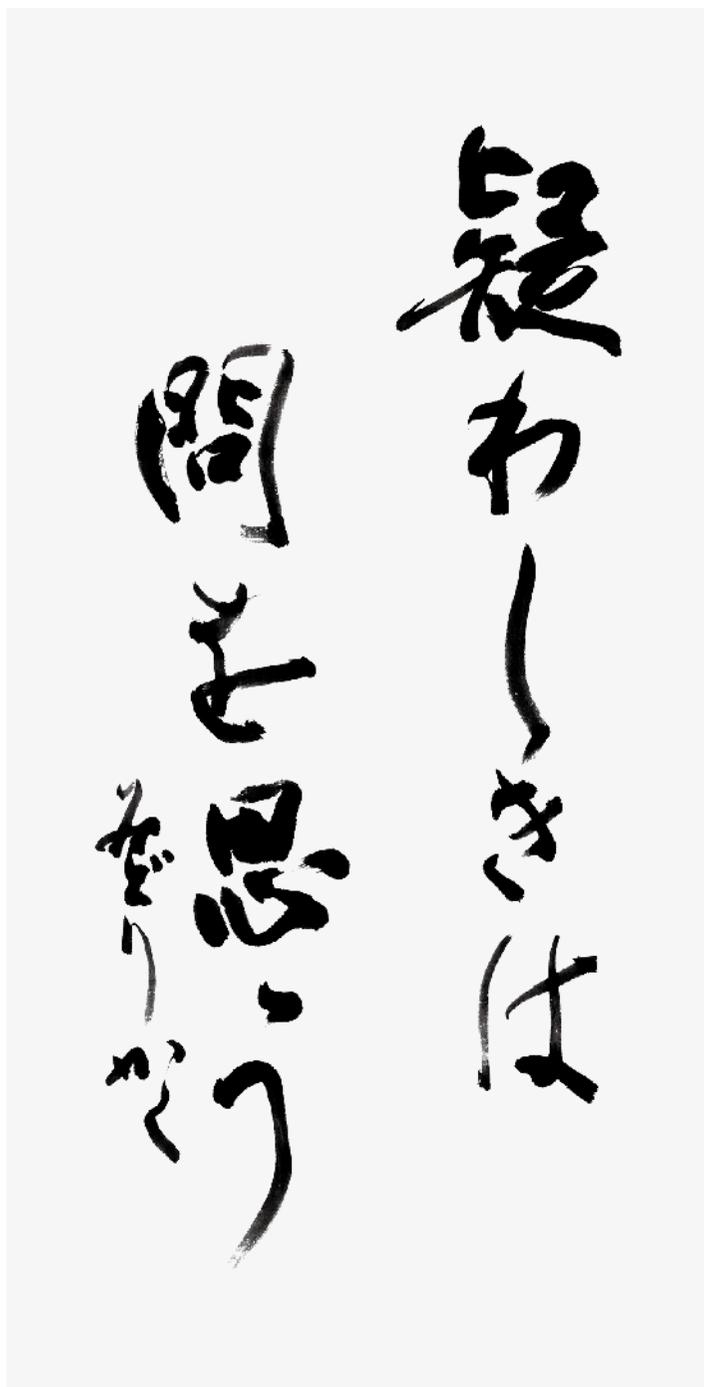
〈用具・用材〉

筆Ⅱ羊毛筆 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱかな用加工紙  
※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

新和様

(八段Ⅱ月例課題  
七段Ⅰ初段Ⅱ昇段課題)

課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



○白が黒(文字)を引き締めます。○文字の大・小の変化  
○用紙に対して大き過ぎないように、天・地・左右の空間を生かしましょう。

疑わしきは問を思ふ

〈出典〉『論語』

〈大意〉

分からないときは質問しましょう。  
(孔子の里佐賀県多久市では論語カルタで孔子の教えを学んでいる。)

〈解説〉

○画数の多い漢字は、短い線に太さを、長い線は、渴筆や細さを活かしましょう。

○行の終りの「は」「う」は、萎縮しないように心懸けましょう。

○名前は位置や大きさとで全体のまとまりが変わります。左にギリギリにならないように。一枚一枚、本文を書き了えたら名前を書くようにしましょう。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆四号羊毛 墨Ⅱ和墨  
紙Ⅱ手漉半紙

新 和 様 ( 1級=昇段課題  
2級~10級=月例課題 )

課題は段級別です。ご注意ください。

竹馬や  
いろはにほへと  
ちりぐに

竹馬や  
いろはにほへと  
ちりぐに

名前はフルネームで書きましょう

(用紙 半紙)  
(解説は20ページ)

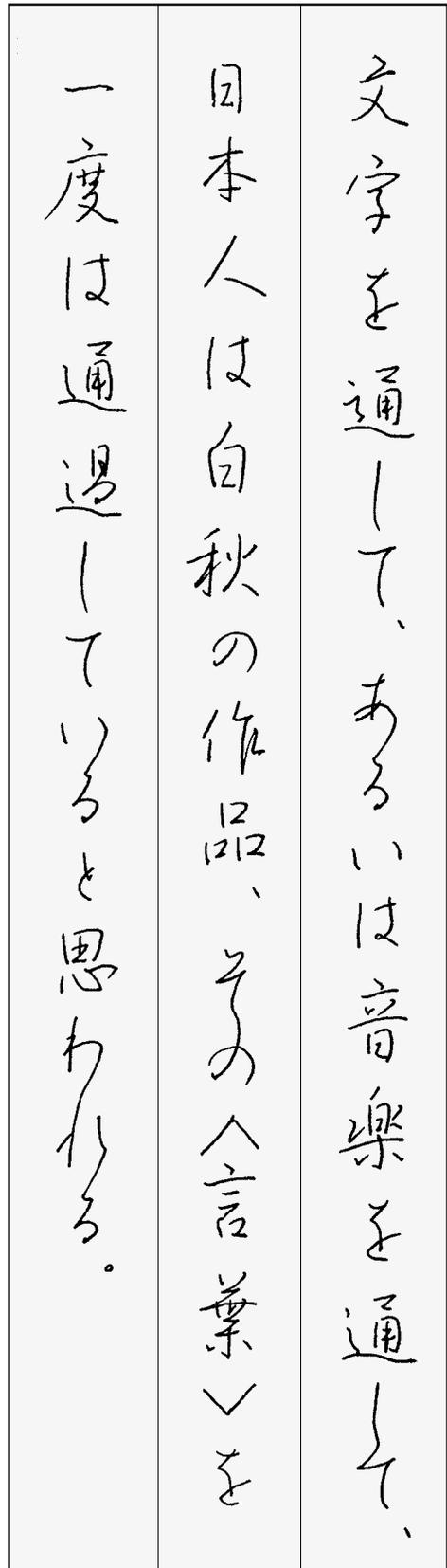
石橋鯉城先生書

1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

ペン（八段Ⅱ月例課題  
七段〜初段Ⅱ昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

堀津節子先生書

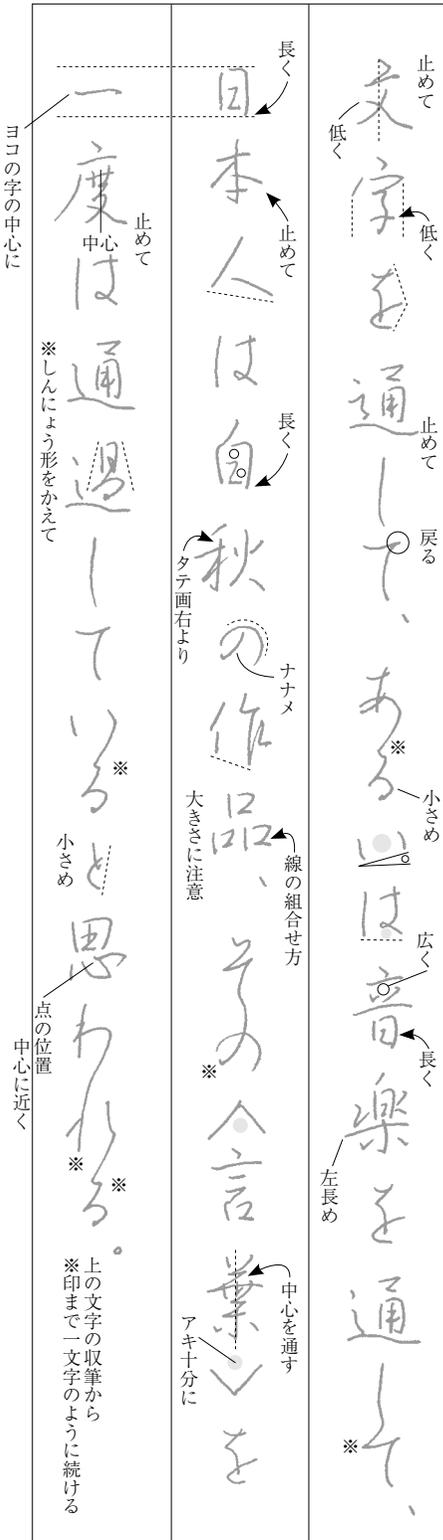


文字を通して、あるいは音楽を通して、日本人は白秋の作品、その「言葉」を一度は通過していると思われる。

〔出典〕『北原白秋歌集』（岩波文庫）高野公彦解説より。なお、北原白秋は福岡県出身である。

用具  
つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン、インクは黒色（鉛筆は不可）  
用紙  
ペン用紙3行書き

〈解説〉



七段〜初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

ペン (1級Ⅱ昇段課題  
2級Ⅴ10級Ⅱ月例課題)

課題は段級別です。ご注意ください。

小島鳳洽先生書

九州北部にある佐賀は、東は福岡、西は長崎に接している。

九州北部にある佐賀は、東は福岡、西は長崎に接している。

〈出典〉 自作文

用具  
つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン、インクは黒色  
(鉛筆は不可)  
用紙  
硬筆用紙2行書き

軽く止めて  
二つのリズムで

九は乙部に属する

九州北部にある佐賀は、東は福岡、西は長崎に接している。

相譲相避

突き出す

〈解説〉

筆写体  
筆写体

1、  
2、  
3、

福  
岡、  
西は  
長崎  
に接  
して  
いる。

筆写体  
筆写体

に接している。

1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

〃 一字書って面白いな 〃 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〈平がな一字書〉（参考作品）



か（この平がなの原字は加の草書形）

平がな「か」の原字は漢字の「加」です。その草書の形を下に示しておきました。

草書では、平がなの「か」の点が二つ打たれて「口」を表しています。昔の日本の人達は草書を超えて平がなを作り、その柔かく明快な筆運びで美しい日本「の文字」を創出し、今日に伝えてくれています。

（随意課題）  
段級に関わりなく出品できます。  
評価は天と地になります。

〈漢字一字書〉（参考作品）



加（読み）カ・くわ（える）  
（意味）くわえる。たす。仲間にする。足し算

雅印を押すことで作品は完成します。押印のために右寄せ、左寄せに書き、かなも漢字も真ん中ではなく、右か左に寄せて書いておきます。雅印の代りに名前を、雅印のように作品に添えてみましょう。

〈用具・用材〉筆 〓 騰龍二号 墨 〓 冠 紙 〓 松雪

石橋鯉城先生書

日常の文字を書こう！（随意課題）

※どの段級の方でも出品できます。（天・地・人で審査）  
「月別出品券」及び「バーコード出品券」を添付し出品してください

（用紙 半紙）

福岡 行橋 佐賀  
嬉野 長崎 平戸

小島鳳治先生書

福岡 行橋 佐賀 嬉野 長崎 平戸

参考の書き方

福岡 行橋 佐賀  
嬉野 長崎 平戸

〈小筆の鋒先は特に大切に扱いましょう〉  
筆は三分の一から二分の一ほどおろして使います。使い終わったら硯の陸に少量の水を垂らし、おろした鋒先の部分だけを軽くすすぎます。または、ペーパータオルに少量の水を含ませてやさしく拭くようにして、含んだ墨を取ります。きれいにした筆はキャップをして鋒先を傷めないように保管します。

日常の文字を書こう！ — 小筆を使って書く⑱ —

教育漢字（4年生）

〈読み〉 コウ・おか

〈意味〉 おか

小高い土地

教育漢字（4年生）

〈読み〉 ガ・よろこ（ぶ）

〈意味〉 ① よろこぶ、祝う。

② ねぎらう。

ほめる。

③ になう。負う。

教育漢字（4年生）

〈読み〉 キ・さき

〈意味〉 ① けわしい

② みさき、海や

湖に突き出し

た陸地の先端

今月も筆写体を用いた参考の書き方を見てみましょう。

【筆写体の例】

○福岡

「福」の示偏は、「示」の筆順のとおり、横・横・中心・左払・右払の順で書くこともできます。旁は梯子でも。

「岡」には、俗字も含め、人名として戸籍に使用されている文字が十種類ほどあるそうです。「山」を草書のように「𠂇」としたり、「止」とするもの。一〜五画をあみがしら（𠂇）としてその下に「止」を入れる、など。

○行橋

「橋」には右・冂と書く筆写体があります。この右の「口」を参考の書き方では梯子にして書いています。

○嬉野

「喜」はソ・一（𠂇）を十にする書き方があります。

「野」は「里」の下の「土」を横に広げる形があります。

喜野

○長崎

「長」の終りの2画の書きぶりを変えています。「崎」には「大」を「立」にするもの、山偏を上に乗せるもの、などがあります。

以以崎寄

○平戸

「平」を「ス・十」のように書くこと・三画目は「ソ」ではなく「ハ」のようになります。左側に「戸」を書く「所」の筆写体も併せて確認してみましょう。

平所所

【出品の形式】

		1回目			
	2回目				
○	福岡	行橋	佐賀		
○	嬉野	長崎	平戸		
○	喜野	長崎	平戸		
○	嬉野	行橋	佐賀		
○	長崎	平戸			
○	平戸				

この形式で出品すること

2行6単語を2回繰り返しますが、2回目は「参考の書き方」で書いても良いでしょう。

令和二年四月一日より施行された小学校学習指導要領の「学年別配当表」に新たに加わった都道府県の漢字二十字を特集しています。今回はその6回目。福岡の「岡」、佐賀の「賀」、長崎の「崎」の三字です。

# 課題解説

## 漢字半紙（誼友〜五段）……………（2ページ）

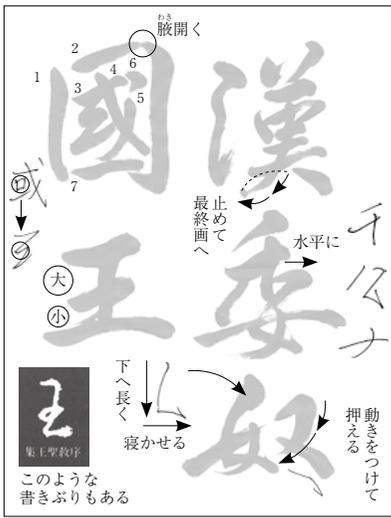
### 漢委奴國王

〔読み〕 漢委奴國王

〔大意〕 福岡市東区志賀島で出土したと推定されている純金製の王印。3行で「漢・委奴・國王」と刻されている。一辺の長さ約二・三cm。

### 〔解説〕

○半紙に五文字と教室名、名前をバランス良く書く。  
 ○鋒を利かせて、行書体の基本用筆を学ぶ。  
 漢：隣の横画は鋒先で書くが、弱々しくならないようにしっかりと骨力をつけて書こう。  
 委：禾の最終画は水平にして高い位置からすぐに女の1画目につなげる。  
 奴：概形は横長になる。3画目は低い位置から払い上げる。  
 國：国の本字である。広がりのある国構えにすると、或るを取めやすい。  
 王：横画の間隔は上を広くして行書らしく。4画目は、紙面の収まり具合を考えてここでは長めにした。  
 〈用具・用材〉 筆Ⅱ永昌四号 墨Ⅱ油煙和墨 紙Ⅱ松風



## 漢字半紙（四段〜初段）……………（3ページ）

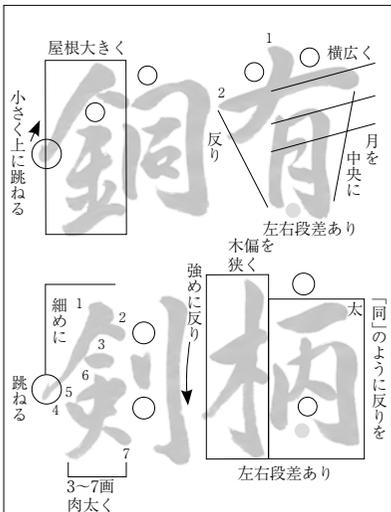
### 有柄銅剣

〔読み〕 有柄銅剣

〔大意〕 弥生時代中期紀元前1〜2世紀の大陸製の銅剣。九州などから出土。佐賀県にある吉野ヶ里遺跡からも出土されている。

### 〔解説〕

○四文字をバランスよく書く  
 ○行書の運筆の呼吸を学ぼう  
 有：筆順に注意して書く。第二画までを横広にして、下の「月」を中央に。  
 柄：木偏を狭くして、旁を広めにゆったりと次の「同」のように表現したい。  
 銅：金偏の屋根を広めに、後の点画を小さくする。旁の枠を太く、中を小さく。  
 剣：左側の屋根を少し細くし、第七画までを肉太くする。右側の「りっとう」を強める。  
 〈用具・用材〉 筆Ⅱ唐筆羊毫（四号程度の太さ） 墨Ⅱ松鶴斎壽 紙Ⅱ松風



## 漢字半紙（1級〜10級）……………（4ページ）

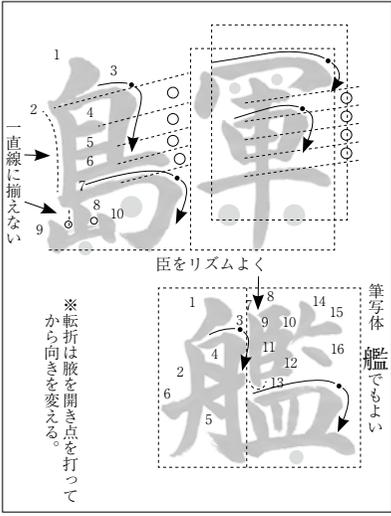
### 軍艦島

〔読み〕 軍艦島

〔大意〕 長崎県端島の通称。明治から昭和にかけて海底炭鉱として栄えた。二〇一五年世界文化遺産に登録された。

### 〔解説〕

○三文字を楷書でバランスよく書く。  
 ○鋒先の位置を確認しながら、きりっとした書線で表現しよう。  
 軍：ワ冠の中に車を伸びよく収める。横画は等間隔に。  
 艦：舟偏と監の組合せ。横に広がりやすい文字なので、舟偏を細身に書き、監もあまり広げない。七画目はしっかりと出す。十六画目の短い横画は、筆写体では点になる。  
 島：横画はリズムよく書くと同間隔になる。八画目は二画目と一直線に揃えない。  
 〈用具・用材〉 筆Ⅱ唐筆羊毫（四号程度の太さ） 墨Ⅱ松鶴斎壽 紙Ⅱ松風



「秀歌之體大略」

解説 浅野秋月先生

君可代八つ支しと所於无ふ神風や三も須所可八の春末む可き利は

〔読み〕君が代は尽きしと思ふ神風や御裳濯川の澄まむかぎりは

〔大意〕わが君の御代はつきることはありません。伊勢神宮の神域を流れる御

裳濯川が澄みわたっている間は。

〔出典〕「後拾遺和歌集」巻第七 賀 四五〇 民部卿経信

〔解説〕

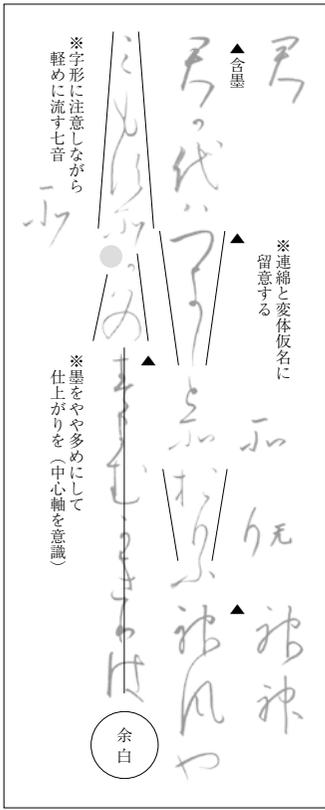
〇一行目は、短歌の上の句・575である。冒頭の「君可代八」の「君」に含墨して「可代八」をそれぞれの大きさで表現する。次に「つ支しと所御无ふ」の部分で3・2・2の連綿で中心軸と文字の大きさに留意して軽く流したい。ただし、「つ」に加筆して変体仮名に注意する。次の「神風や」の「神」の部分に加筆して立体感を出す。

〇二行目は、短歌の下の句77である。「三も須所可八の」は単体と連綿とのリズムを意識してやや軽く流したい。最後は、「春末む可き利は」の「春」に加筆して重さと字形を考えて仕上げよう。二行下段は余白を忘れずに。

〇短冊の書式について理解して全体の構成を考える。

〇全体を見て、漢字と変体仮名の使い方並びに、連綿に注意してほしい。

〇墨絵に見られるような濃淡の美を觀賞して、意識しながら美感覚を養うこと。



つ久者ねの み年より於つる 美那の川 こひそ徒もり天 ふちとなりぬる

〔読み〕つくばねの 峰よりおつる みなな川 こひぞつもりて 淵となりぬる

〔大意〕筑波山の峰から流れ落ちる男女川は、わずかな水が積もって深いよどみ

となつていくように、わたしの（ひそかな）恋心も積もり積もって、深い物思

いのよどみになつたことである。

〔作者〕陽成院（八六九～九四九）

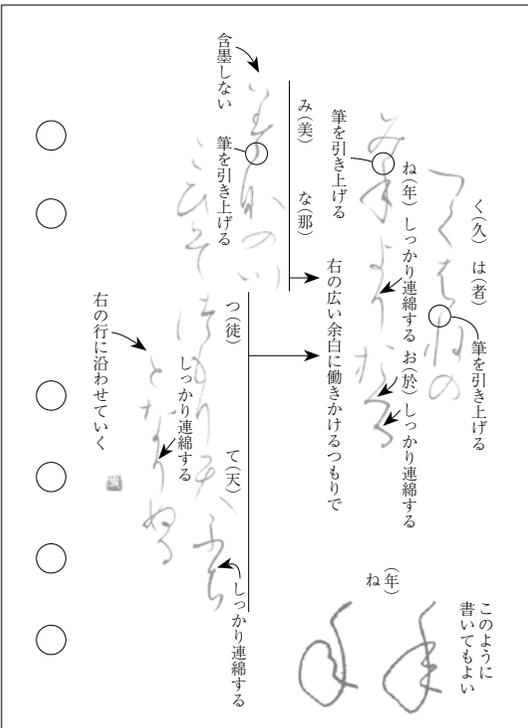
〔出典〕『評解小倉百人一首』京都書房

〔解説〕教室・氏名の書き方を見直しましょう。

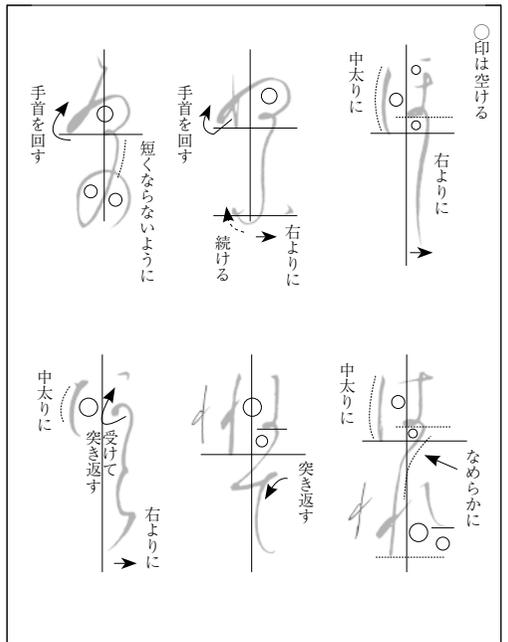
和歌は一生懸命書くのに、教室・氏名は大して考えずに書いていませんか。教室や氏名が ○左端に寄り過ぎているもの ○文字が小さくて自信のなさそうなもの ○墨量が多くて、和歌より目立っているものなどが見受けられます。和歌の横にどのように書けばうまく調和するのか、文字の大きさ・位置・墨量を工夫して下さい。

〔用具・用材〕

筆Ⅱかな用小筆 紙Ⅱかな用半紙 墨Ⅱかな用和墨



※左には、教室名・氏名を入れます。



かな半紙 (1級〜10級)  
..... (7ページ)

ほしはれ  
ぬふねて  
ゐの阿ら

※二字連綿は古典の表現で和歌の基本的な美をつくる大切なものです。繰り返し学習しましょう。

新和様 (1級〜10級)

..... (12ページ)

竹馬や いろはにほへと ちりぬる

〔作者〕久保田万太郎 (一八八九〜一九六三)  
〔大意〕ともに竹馬で遊んだり、いろはの手習いをした仲間も、冬が終わりやがて卒業シーズンとなって、みな散り散りになってしまった。今頃みんなどうしているだろう。

〔解説〕

この新和様の課題では次の点に留意して書きたい。  
一 漢字半紙用の筆の鋒先を使用して書く  
二 磨った墨を使う

課題の「竹馬や いろはにほへと ちりぬる」を、先ず洋紙の上にボールペンや万年筆で落書き風に軽く書いて、筆の動き、文字の大小、続け具合を感じ取る。

三 手本を見て気がつくのは、だいたい筆圧をかけてゆっくり書いた処は線が太目で少し墨を濃くしている。淡めに書いている処は腕を開

いて手指の力を抜いて、筆の鋒先を使って書いている。筆運びのユックリした処は墨が溜まっている。参考手本を見ながら其の様な区別を見極めておく。  
四 次に、起筆、送筆、収筆の要領を見たり、軽快に運筆する処と鋒先を沈める処の区別をつける。

五 形も然ることながら、運筆の要領を掴むことを第一とする。  
昔の人たちは短冊を手持って気楽に筆を使ってこんな調子で書いていたのだろう。仲々よい課題。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 顕微無間 半紙 松雪

◆四・五月号課題予告

漢字半紙

誌友 五段 日下部鳴鶴

四段 初段 獨坐観念

1級 10級 信楽焼

かな半紙

誌友 五段 又やみむ可多の、み能、佐久ら可里者なの雪知る春の阿介本乃

四段 初段 わたの原ごいでみれば久方の雲るにまがふ沖つ白波

1級 10級 いろはにほへ とちりぬるを

扁額 / 漢字条幅

誌友 初段 未定

1級 10級 比叡山

かな条幅

誌友 10級 海は晴れて比叡降り残す五月哉

新和様

八段 初段 未定

1級 10級 未定

ペン

八段 初段 近江八景「堅田の落雁」で名高い浮御堂は、寺名を海門寺満月寺といい、昭和十二年再建の建物は昔の情緒を残している。

1級 10級 延暦寺は平成六年に世界文化遺産に登録されています。

※課題は変更になることがあります。